

KLIS TODAY

No.
18

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

学生主体の大学説明会

鈴木 美識

8月1日、知識情報・図書館学類の大学説明会が実施されました。非常に多くの方が来てくださり、そして大きな問題もなく無事に実施することができました。知識情報・図書館学類大学説明会実行委員会は、学生主体の説明会を催すため、5月ごろから各企画に担当者を割振り、準備を進めてきました。大学説明会当日、最初は参加者が少なく不安に思った企画もありましたが、最終的には多くの方々に楽しみながら参加していただきました。先生方を始めとして、ご協力いただいた多くの方々に感謝します。

学生主体の説明会は今年で4年目となりました。私は一昨年に高校生として参加し、パネルディスカッションや模擬講義、宿舍見学で親切にしてくださった先輩の思い出を受験へのモチベーションにつなげました。今年の来場者の方々にとっても、説明会がモチベーションを上げるきっかけになれば幸いです。また、受験生の人たちとの交流は、私たちに学生とっても、自分がこの学類に来た理由を思い出して初心に帰ったり、研究内容について深く知る機会を得たりと、よい経験になりました。

大学説明会はまだまだ変化の余地があります。来年もまた、高校生の頃に説明会に求めていたことを思い出しながら、この学類の雰囲気、特色をさらに伝えられるような説明会を作ってもらいたいです。そして学生から新たな学生へと、その連鎖が続くことを期待しています。

参加してくださったみなさん、また、Ustreamを見てくださったみなさん。説明会にいた学生スタッフは、春日エリアで日常を過ごしています。またここで会えることを楽しみにしています。

がんばってください。



(すずき・みさと 知識情報・図書館学類2年次)



スチューデント・トークを終えて

瀧 佐友里

今年のスチューデント・トークはプレゼンのテーマが六つにボリュームアップされ（例年は四つ）、聞きごたえがあったことと思います。フランクで自由なこの企画では、なかなか聞くことができない貴重な筑波大学での生活の様子や、十人十色なこの学類の学生の独特で和やかな雰囲気を感じ取っていただけたことでしょう。そう、文理融合型のこの学類には、特技や趣味、長所や好みもそれぞれ違った個性的な学生がたくさんいるのです！

プレゼンの終了後に、ある高校生の方から「絶対この学類を受験しに来ますね！」と言われ、実行委員共々、この企画を練り実施できて本当に良かったと感じました。ひとりでも多くの方に知識情報・図書館学類の魅力を伝えることができれば幸いです。

さあ少しでも興味の湧いた皆さん、まずは Twitter を始めて、ぜひこの学類の学生をフォローしてみてください。（たき・さゆり 知識情報・図書館学類1年次）

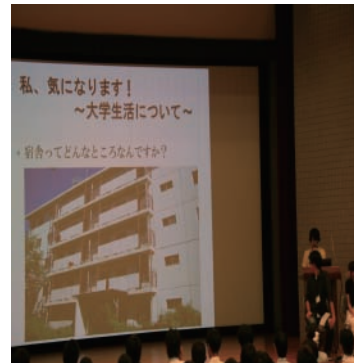


スチューデント・トーク会場

パネルディスカッションの企画を担当して

榎本 翔

高校生にとってもっとも気になるのは、入試と生活環境だと思います。パネルディスカッションではこの2点を重視して構成し、パネラーの方にお話してもらいました。知識情報・図書館学類は色々な経歴や考え方を持った学生が集まりますが、その多様性を伝えるために、すべての入試形態（AC入試、推薦入試、前期・後期入試）に対応した4名にパネリストを依頼しました。パネルディスカッションの前半は、パネリストそれぞれが受験した入試形態と、「宿舍」、「読書」、「大学の数学の授業」、「大学生活におけるPCの活用」について、後半は、知識情報・図書館学類の学生生活を中心にお話しました。今回のパネルディスカッションでは、入試のことも学生生活のことも、普段は聞くことができないような情報を高校生・受験生に伝えることができたのではないかと思います。（えのもと・しょう 知識情報・図書館学類1年次）



パネル・ディスカッションの様子

展示企画—斬新なアイデアたち、 高校生の目を楽しませる

北藤 李津子

展示企画では、本学類の学生が作成したポスターと、プレゼンテーションのファイルを展示しました。ポスターは、1年生・3年次編入生が1学期に開講された「情報基礎実習」において、プレゼンテーションは2年生が1年生の2・3学期に「情報リテラシ実習」において「筑波大学の魅力」というテーマで作成したものです。

情報基礎実習で作成されたポスターは、実際に自分で描いたイラストや、Wordに内蔵された図形を組み合わせたものを挿入するなど、各自のさまざまなアイデアが取り入れられ、ユニークに、そしてカラフルに教室を彩ってくれました。

情報リテラシ実習のプレゼンテーションファイルの展示には、iPadを使用しました。見学に来た高校生は、興味深げにiPadを操作しながら、プレゼンテーションファイルに見入っていました。

企画に足を運んでくださった高校生のみなさんが、来年以降本学類でさらに素敵なポスター・プレゼンテーションを作ってくださいるのが楽しみです。



お気に入りのポスターの前で

(きたふじ・りつこ 知識情報・図書館学類2年次)

放映企画の撮影と編集

岩井 直也

放映企画で、私は展示企画と同じ部屋で放映しておく映像の撮影や編集を担当しました。今年は先生方への知識情報・図書館学類についてのインタビュー、在学生たちの紹介する春日エリアのいいところ、宿舍祭でのお御輿の様子を放映しました。

編集作業で一番時間がかかったのは先生方へのインタビューでした。長いインタビューの映像を一定の時間に収めるための編集作業はとても悩ましいものでした。興味深い話なので切り取る部分を見つけることができないのです。そのなかから特に興味深い部分を来てくれた人にわかりやすく伝えるよう努力しました。

「先生からみた知識情報・図書館学類とは？」という質問をしたところ、それぞれの先生によってまったく違った答えが聞けたので、この学類の幅広さや、とらえ方が多彩であることを改めて思い知りました。当日放映企画をみていただいた人には、これを通して学類の魅力が少しでも伝わっていれば嬉しいです。

(いらい・なおや 知識情報・図書館学類2年次)

大学が身近に感じられるキャンパス・ツアー

高砂 哲

キャンパス・ツアーは、高校生やその保護者の皆さんに春日エリアを広く見てもらい、どのような環境で大学生活を送るのかを知ってもらうために行いました。各施設の説明は学生が行うので、「宿題が大変な授業もある」、「食堂のメニューではからあげ丼が一番美味しい」など、学生の生の声を聞けるのがウリでした。説明を熱心に聞いてくださる方も多く、大学の授業で使うプログラミング言語について質問した高校生もいたようです。説明する学生側も、図書館についてはどんな本や雑誌があるのか詳しく説明しました。説明しているあいだ、高校生の皆さんもワクワクしている様子で、こちらにも元気をもらいました。

想像以上に多くの人に来ていただいたので、こちらでも出発前の班を編成する際に列を揃えるのが大変だったりしましたが、何とか無事に終えることができました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。
(たかさご・さとる 知識情報・図書館学類1年次)



班に分かれてキャンパス・ツアー

バスツアーを振り返って

関 春奈

昨年度とは異なり、今年度のバスツアーはバスの本数を1便から3便に増やしての運行でした。バスツアーの予約が始まるまでは、参加者が集まるのか不安でしたが、いざ始まってみると、全便ほぼ満席状態での運行となりました。バスツアーに大勢の人に参加してもらえたので本当に良かったです。

バスツアーでは、ガイドする上での台本などをあえて用意しなかったのが、学生目線での筑波大学の魅力が伝わったのではないのでしょうか。今回のバスツアーはガイド個人の視点で筑波大学の魅力をお伝えしましたが、バスツアー参加者の皆さんには、もし筑波大学に入学したら、それぞれにとっての筑波大学の魅力を発見してほしいな、と思います。



バスツアーに出発！

(せき・はるな 知識情報・図書館学類2年次)

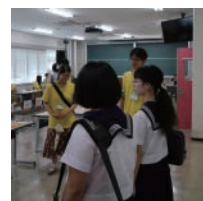
学生相談コーナーを運営して

伊藤 光紀

学生相談コーナーでは、受験対策や大学生活などの様々な疑問について、先生方の口からは語り得ない、学生ならではの視点からお答えしました。昨年度までとは違い、受験形態ごとに個別にブースを作成し、それぞれを受かった在校生がほぼ一対一で質問に対応することにより、現に学んでいる学生の「生の声」が伝えられたと思います。

今回、このコーナーを運営するにあたっては同じ知識情報・図書館学類の皆さんの協力が大きな助けになりました。私は来年度も大学説明会に関わりますが、今年度の経験をもとに、さらに大学説明会での企画を充実させていきたいと考えています。また、今年度、自分が先輩や当日スタッフの方々の協力を助けにしたように、来年度この企画の中心になる新1年生の助けになることができたら、と思います。

(いとう・こうき 知識情報・図書館学類1年次)



筑波大学の大学説明会は、7月30日、31日、8月1日に学類ごとに行われました。
全体の参加者数は9,785名、知識情報・図書館学類の参加者は、428名でした。
多数の皆様方のご来場ありがとうございました。

高大連携事業 ～公開講座・出前授業～

知識情報・図書館学類では、毎年5月、茨城県立高等学校の高校生を対象とした「公開講座」を行っています。2012年度の公開講座は、メディアに対するものの見方を深めることを目的とした、「今に伝えるメディア、今を伝えるメディア」でした。参加者は43名で、3名の教員（綿抜豊昭教授、上保秀夫准教授、関洋平助教）が2日間の講義を担当しました。講義の目的は「メディアの本質と技術について学ぶ」、演習の目的は「インターネットの百科事典であるウィキペディアに情報を実際に書き込み、自らが情報の生産者になる体験を通して、ウィキペディアの仕組みを理解する」でした。

また、「公開講座」以外に、知識情報・図書館学類では、さまざまな専門領域の教員が高校で「出前授業」を行っています（2011年度の「出前授業」の例：「記録資料の保存と大災害アーカイブズの観点から」（白井哲哉准教授）「デンマーク公共図書館の秘密を探る」（吉田右子教授））。



公開講座に参加した高校生の皆さん



公開講座講義「『絵』というメディア」
（綿抜教授）



公開講座演習「ウィキペディアの記事を書こう！」（上保准教授）

インターネットメディアの分析とコミュニケーション支援

担当：関 洋平
茨城県立高校生公開講座
「今に伝えるメディア、今を伝えるメディア」
2012年5月26日 13:15～15:00

インターネットメディアの分析

- インターネットメディアを利用するだけでなく、その書き込みを集約して分析
 - 1. 多くの最新の知識を集約（＝集合知）
 - 2. 利用者の最新の生声（意見、興味のある話題）を判断
- コミュニケーション支援への応用事例
 - 人間のたくさんの書き込みをお手本として、コミュニケーションを支援
 - 1. 質問応答：人間の質問に対して自動的に回答
 - 2. 語文字推薦：書き込んだ内容に適切な語文字を推薦
 - 3. その他、感情状況の推定、意見分析、...

1.2 本研究の目的

- 適切な顔文字の選択を支援できないか？

文章の単語やその他のカテゴリを推定し、顔文字を推薦するシステム

今日の天気は晴れだなぁ
明日もよろしくお楽しみします

システム

（^o^）
（≧▽≦）
（^o^）
m(_ _)m
（^o^）

公開講座講義「インターネットメディアの分析とコミュニケーション支援」のスライド（関助教）

インターンシップ

知識情報・図書館学類では、「国際インターンシップ」(3、4年次を対象とした専門科目)や、国立国会図書館、公共図書館や企業の図書館等での「インターンシップ」(3年次を対象とした専門科目)を行っています。2012年度のインターンシップに参加した3年生2名にインターンシップでの体験について書いてもらいました。

海外を知るインターンシップ体験

泉 沙也香

知識情報・図書館学類では、学生が学類からの援助を受けて海外の図書館を訪問する「国際インターンシップ」が開講されています。今年は4か所の図書館からの受け入れがあり、私は8月21日～30日の10日間、上海図書館でのプログラムに参加しました。

インターンシップという名前ではありますが、今回は上海図書館をはじめとする上海市内の図書館の見学や、筑波大学や日本の図書館事情を紹介する発表を行いました。上海図書館は、その規模は中国第2位の図書館であり、海外との連携や市内の他の図書館への支援を積極的に行っていました。市内のいくつかの図書館は従来の資料提供に加えて電子資料の提供を行っており、特に子どもたちのための電子ブック体験に力を入れているところが多いようでした。さらに、館内の重厚なデザインや、家系図の収集等歴史を重んじる取り組みなど、私たちが持っていた中国のイメージを感じる部分もありました。しかし、課題も多く残されているようで、今後は小さい行政区画の図書館の質を改善する取り組みを行っていききたい、とのお話を伺いました。今回伺ったどの活動にも共通して、前進していきたいという上海の図書館の人々の思いを感じ、きっと中国の図書館はこれからますます発展していくのだろうと思いました。

本インターンシップにあたっては、国内外の図書館に関するレポートの作成や英語の学習等、事前準備に大変な面もありました。しかし実際の上海の空気に触れて初めて、わずかではありますが、上海という街とそこに住む人々の思いを知ることができました。今回のインターンシップに関わっていただいた方々に、改めてお礼を申し上げます。

(いずみ・さやか 知識情報・図書館学類3年次)



上海図書館メインゲート



上海図書館の電子端末のブース

インターンシップを終えて

大野 勝也

私は夏休みに10日間、福島県立図書館にてインターンシップを行ってきました。期間中は、選書や貸出・返本作業、資料の受入・装備作業等の一般的な図書館業務と、福島県の県立図書館独特の業務の双方を行いました。この福島県独特の業務というのは、県内の市町村の図書館未設置率が高いため必要とされる移動図書館での作業や、東日本大震災後の仮設住宅・仮設学校への支援用図書の整理作業等を指します。最初はとても緊張しましたが、図書館情報専門学群や図書館情報メディア研究科の卒業生の方が多く在籍していらっしゃったお蔭もあり、とても楽しく行うことができました。

今回のインターンシップを通して私は、次のことを感じました。例えば、書誌レコード作成の際にNDCや情報探索の知識、英語の読解能力を用いる等、これまでの講義で得た知識を相互に関連づけて活用しながら図書館業務を行うことで、複数の知識をひとつの経験とすることができたことに大きな喜びを感じました。同時に、図書館業務を行うにあたりまだまだ勉強不足である部分が明確

になったことで、今後の学習における課題について見つめ直せたこともよかったと思います。また、資料や利用者に対するときの心構えや意識といった、なかなか大学の講義では掴むことのできない事柄について、肌で感じられたことも大きな学びとなりました。そして、図書館業務を行うなかあるいは職員の方々のお話を伺うなかで、卒業研究のテーマであるとか、卒業後の進路について等、今後における指針を立てられたことが、今回のインターンシップで得られた最大の収穫だったと思います。

10日間という短い期間ながら、学習のひとつのまとめとして、さらに今後の学習の起点とし、インターンシップは私にとって大変価値のあるものとなりました。

(おおの・かつや 知識情報・図書館学類3年次)



～平成24年度の知識情報・図書館学類のインターンシップ～

○国立国会図書館、公共図書館や企業の図書館でのインターンシップ

- ・参加者 54名
- ・機関 40か所

※インターンシップ候補機関の情報

<<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/school/gakumu/24internship.pdf>>

○国際インターンシップ

- ・参加者 13名
- ・機関 4か所（中国：上海図書館 5名、韓国：釜山大学 6名、カナダ：ブリティッシュ・コロンビア大学アジア図書館 1名、カナダ：トロント日本文化センター 1名）